Topic

COLUMN：先生紹介

澤井 伸一



今を楽しむ

こんにちは。はじめまして、澤井伸一と申します。

私はこれまで、アパレル業界での紳士服販売をはじめ、兵庫の大手学習塾、岡山の私立高等学校での教諭、そして神戸のインターナショナルスクールでの日本語教師として、多様な教育現場を経験して参りました。

公教育と民間教育の両方を歩んできたからこそ、改めて教育の大切さを強く実感しています。義務教育を含む学生時代は、子どもたちにとって人生の土台を作る貴重な期間です。特にこの時期の「人との出会い」は、その後の人生を大きく左右する重要なものとなります。

教育のトレンドは、その時代に応じたファッションのように変化します。かつて受験競争の過熱への反省から、文部科学省の主導で「ゆとり教育」へと教科書が改訂された時代もありました。そして最近では「探究」という学習方針が注目を集め、高等学校にも「探究科」というコースが設けられています。

本来「探究」とは、人から答えを教えてもらうものではありません。子どもたちが自ら考え、疑問に思ったことに対して、ファシリテーター（進行役）が方向性や考え方のヒントを示すものです。しかし、私たち大人はよかれと思い、子どもたちの思考を先取りしてしまいがちです。「じっくりと待つ」ということが、なかなかできないのが現状ではないでしょうか。

私がかつて勤務していたインターナショナルスクールはIB（国際バカロレア）の認定校で、小学1年生から6年生までの日本人の生徒が在籍していました。そこでは日本語（国語）の授業以外はすべて英語で授業が行われていました。

文部科学省の学習指導要領に沿った学習内容ではなく、独自のテーマに基づいた1年4ターム制を導入し、6つの探究テーマを通じた「教科横断型学習（複数の教科を同時に学ぶスタイル）」で、学習者（生徒）の探究心や思考力を育成していきます。

例えば、小学6年生の算数の授業では、教室を飛び出して学校周辺にある自動販売機を巡ります。各自ノートを持参し、コーヒー、オレンジジュース、炭酸ジュースなど、1つの自動販売機にどのような種類の飲料が販売されているかを調査し、教室に戻って発表します。そして、全体のどのくらいの割合でそれぞれの飲料が販売されているのかを考えていきます。

日本の一般的な学校教育では、まず教科書で分数の計算方法や解き方を教えます。しかしIBでは、「実社会において分数がどのように役に立つか」を先に考えます。ここでは正解を求めることに重点を置いていません。「なぜ？どうして？」という問いから多様な考え方を育むことで、子どもたちの発想力を育てていきます。

日本の大学入試は、センター試験から共通テストへと移行し、暗記志向型から「読み解く」入試へと大きな変化を遂げました。もちろん基礎学力や暗記は必要ですが、単に答えを求めるだけでなく、与えられた文章から意図を読み解き、推測して答えを導き出す作業が必要になっています。

ある年の大学入試では、数学の問題であるにもかかわらず、国語のように文章が長く、式を立てて正解を導き出すまでに時間がかかり解けない問題がありました。実はその問題には、出題内容と直接関係のない文章が含まれており、「必要な情報だけを探し出して解く」という、思考力を試す難関問題だったのです。

また英語の入試においても、これまでは下線部の設問であれば、前後を読めば解答が導き出すことができる出題でしたが、現在はパラグラフ（段落）全体の文脈から内容を推測して、ベストな解答を選び出すことが求められています。現状の入試問題は、まさにこうした「社会で生きる実践的な読解力」を測る時代へと変化しているのです。

教育のトレンドが時代とともに移り変わるように、入試の形もまた変化し続けています。しかし、どれだけ表面的なトレンドが変わろうとも、自ら考え、文脈を読み解き、本質を見出す力は、時代を超えて普遍的な価値を持ち続けます。

ファッションにおいて「流行」の先にあるものが「自分らしさ（スタイル）」であるように、教育の役割もまた、子どもたち自身が自らの頭で考え、自分だけの答えを導き出すための土台を築くことにあります。変わり続ける時代の中で、子どもたちが時代に流されない「一生モノの思考力」を身につけられるよう、これからも彼らの探求の旅をじっくりと支えていきたいと思います。



吉岡のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE　吉岡 涼子（WEBマーケティング・パスカルキッズFC担当）

読書の秋に、おすすめ図書館

皆さん　図書館は好きですか。

私は大好きです。まず本がいっぱいの空間というだけでも心が躍るのに、図書館は建物としても素敵です。最近はいろいろなスタイルの図書館がありますが、今回は私が実際に訪れて「本当によかった！」と感じたおすすめの図書館を二つご紹介します。

一つ目：「こども本の森 中之島」（大阪）

建築家・安藤忠雄氏が寄贈したことでも話題になった施設です。

オープン当初は大きな話題となり、予約がなかなか取れなくて、気になりつつも諦めていましたが、現在は混雑も落ち着き、予約を取りやすい日が増えているようです。

私が訪れた時も、当日受付で数時間後の予約を取ることができました。

扉を開けると、そこには従来の図書館のイメージを覆す空間が広がっています。

足元から吹き抜けの天井まで、壁一面を覆い尽くす本、本、本。圧倒的なスケール感でわくわくします。友人と訪れて、おすすめの絵本や画集を教えてもらいながら堪能しました。

テーマごとにエリア分けされており、素敵な空間を歩いているだけで気になる本に気づき、足が止まります。



◀こども本の森 中之島　外観

▼こども本の森 中之島　館内



ここでは「探して読む」のではなく、「空間そのものを楽しみながら、直感的に本と出会う」という体験ができました。

「こども」と名がついていますが、大人向けの本や漫画も充実しており、家族でも楽しめるのではと思います。

二つ目：「石川県立図書館（百万石ビブリオバウム）」（金沢）

来館者数は日本一、世界がうらやむ図書館だそうです。

円形劇場のような建物で、館内には様々なデザイナーズチェアから1人用ソファまで多様な椅子が並んでいます。

設計を手掛けた建築家の仙田満さんによると「目指したのは、本を探して歩き回るのが楽しくなり、思いもよらぬ知と出会える図書館です。

歩くことで脳は活性化され、興味が湧いたことに集中できる。ですから今回は、図書館の床は平らであるべきとか、黙って読書すべしといった従来の常識は横に置き、階段状のフロアをつなぐスロープや、おしゃべりOKのスタイルなど、新たな形に挑戦したのです」とのこと。（『カーサ　ブルータス』2025年3月号より）

実際に足を踏み入れると、わくわくするなかでも、不思議と落ち着き、集中できる空気感がありました。

訪問した日は多くの学生さんたちが自習スペースで勉強しており、日常使いできる地元の方々が羨ましくなりました。

ちなみに、私が次に行ってみたいのは、YOASOBIがNHK紅白歌合戦で歌った「本棚劇場」で知られる埼玉県所沢市の「角川武蔵野ミュージアム」です。

石川県立図書館もそうですが、魅力的な図書館には素敵なカフェが併設されていることも多く、本と一緒においしい時間を過ごせます。

読書の秋、そして食欲の秋。皆さんもぜひ、お気に入りの「居場所」を探しに図書館へ出かけてみてはいかがでしょうか。



▲石川県立図書館　館内



▲石川県立図書館
シルバニアファミリーの展示がありました

カイチからのお知らせ

■10月11日（日）は中学3年生対象に第5回五ツ木模試が実施されます。
■10月13日（火）は珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズ・小学部は休講です。
■10月25日（日）は珠算上級・段位検定試験です。
■10月26日（月）・10月27日（火）は小学10月診断テストが実施されます。
■11月8日（日）は中学3年生対象に第6回五ツ木模試が実施されます。

発行／株式会社 開智総合学院　〒536-0004 大阪市城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI201　TEL.06-6939-0008

Growing

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

October 2026
Vol.169
毎月10日発行

【本　部】
城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
【高殿教室】
城東区成育 5-22-10-2F
TEL.06-6786-1008
【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563
【カイコベ】
城東区今福西 3-4-9
TEL.06-6180-6565

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467
【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220
【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011

10月・11月は勝負の2カ月



高木 秀章（塾長）

～周りではなく、自分と向き合う受験をしよう～



9月は秋とは思えない暑さと連日の大雨で、まさに異常気象のような日々でした。しかし10月に入り、ようやく秋らしい過ごしやすい気候になってきました。その一方で、塾内ではインフルエンザやコロナが増え、体調不良で欠席する生徒も出ています。特に受験生のみんなは、体調管理を最優先にしてください。

中学3年生の夏期講習明けの模試結果が戻ってきました。受験生235名の平均偏差値は59.5、偏差値60以上の生徒は125名で全体の53%にのぼります。教室別では今福教室が平均62.5でトップ。教室平均が60を超えるのは本当に驚異的で、夏の皆さんの努力がそのまま数字に表れた結果だと思います。ただし、これはあくまで8月末時点の結果です。ここからが受験の本当の勝負どころです。

どの中学校でも、10月・11月の実力テスト（塾では五ツ木模試）をもとに、12月の三者懇談で受験校が決定します。つまり、合否の前に「志望校を受けさせてもらえるかどうか」が決まるのがこの2カ月です。志望校を受験できなければ、当然合格はできません。この期間は受験の行方を左右する極めて重要な時期です。

さらに11月下旬には期末テストがあります。期末は5教科だけでなく、技術・家庭科・美術・保健体育なども含まれ、内申点に大きく影響します。公立高校を第一志望にしている人は絶対に落とせません。また、中3後半の内容は受験での出題率が高く、定期テストで理解した内容がそのまま入試に出ることも多い。12月末から始まる私立赤本特訓にも直結するため、期末テストは受験勉強の一部として決して疎かにできません。

この2カ月は、実力テスト2回、五ツ木模試2回、進研模試、英検、そして期末テストと、まさにテストのオンパレードです。そんな時期だからこそ、心がけてほしいことが2つあります。

1つ目は「先のことを考えすぎず、今日一日を精一杯頑張る」ことです。不安が強い時ほど、人は『このままでは受からないかもしれない』『自分はダメかもしれない』と考えてしまいます。その不安が頭の中をぐるぐる回り、勉強が手につかなくなることもあります。だからこそ、先のことを考えすぎず“今ここ”に集中することが大切です。今日一日をやり切ったら、自分の肩を軽く叩いて「頑張った」と言ってあげてください。それだけで心がすっと落ち着きます。不安と戦っている自分を、ちゃんとねぎらうことが大切です。

2つ目は「周りを見ずに、自分と向き合う」ことです。ここからもテストは続きます。どのテストも満点を取れるわけではありません。結果が悪かった時こそ、落ち着いて答案と向き合い、丁寧に間違い直しをする。弱点単元なのか、ケアレスミスなのか、時間配分なのか原因を探る。必要なら先生のところに来てください。まずは自分の現状を知り、克服するための対策を考えることが大切です。

周りの友達が伸びているように見えて焦る人もいるかもしれません。しかし、受験で大切なのはライバルに勝つことではなく、自分に負けないことです。自分のすべきことを粛々と積み重ねる。それが一番の近道です。

努力すればするほど、「落ちたらどうしよう」という不安は強くなります。この不安は、努力しているからこそ生まれる健全な感情です。もし不安に押しつぶされそうになったら、厳しい言い方に聞こえるかもしれませんが、手を動かして勉強してください。不安を和らげる方法は、地道な努力しかありません。

受験という荒波にも負けず、定期テストでも努力の姿勢を忘れず、そして将来にわたって努力できる自分を育ててほしい。結果はもちろん大事ですが、それ以上に「ここ一番で努力できる自分」をつくることこそが、人生を支える大きな力になります。これからの時代は、特にこの“人間力”が人生を左右する気がします。

高校受験に本気で向き合えるのは、人生で今しかありません。後で振り返った時、「逃げた」と思うのか、「しっかり向き合えた」と思うのか。それを決めるのは合否ではなく、苦しいことから逃げずに乗り越えたという“自分への信頼”です。

受験生のみんな。プレッシャーのかかる時期に入りますが、みんなで頑張ろう。そして全員で志望校合格を勝ち取り、最高の春を迎えましょう。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

今津教室の“いま”

辻田 衣里（今津教室）

こんにちは、今津教室の辻田です。
朝晩は少しずつ涼しくなり、秋の訪れを感じる季節になってきました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今津教室はというと、少し前まで中間テストの時期ということもあり、授業だけでなく、自習にもたくさんの生徒が集まっていました。どの教室の席もほぼ満席で、いつも以上に活気にあふれていました。

このように多く生徒が今津教室に通ってくれているのも、日頃から教室を支えてくださっている地域の皆さまのおかげだと思います。いつもありがとうございます。
これからも、日々努力する生徒たちを力強く後押しする、そんな教室でありたいと思います。



▲夏から授業だけでなく、ビンゴ大会にも参加しているムン先生。すっかり今津に馴染んでました！

早速ですが、今回は、そんな今津教室の最近の様子を少しご紹介したいと思います。よろしくお願いいたします。

まず中学部では、夏から新しい英語担当として、ムン先生がきてくれました。予備校も掛け持ちしている先生で、なんとTOEICでは945点を取得されています。事務室では、日々しっかりと授業準備を行っている姿が印象的で、授業中も、教室から、小テストの大切さを熱く語る声が聞こえてきたりと、とても生徒思いの真っすぐな先生です。

今津教室では、熱心な非常勤の先生も、日々、生徒たちを支えてくれています。いつも生徒を見かけると、すぐさま声をかけにいき、より近い目線で話を聞いてあげ、自分の経験を交えながら、アドバイスする姿がみられます。質問対応では、分かるまで、とことん付き添い続けます。生徒自身も、先生を信頼しているのが伝わってきます。年数や技術だけではない、何か大切なことがそこにはあると思います。

また小学部では、通常授業や診断テスト、理科実験の他に、昨年から年2日、ボードゲームが行われております。種類は、コミュニケーションゲーム、ディスカッションゲーム、事業投資ゲームがあります。いずれも4～5人の班に分かれて行い、皆と話し合って進めていきます。これが結構面白く、授業では、普段そんなに自分からは話さないような子が、話し合いをリードしていたり、行き詰まったときには、良いアイデアを出して助ける子がいたり、普段とはなかなか違った生徒の姿が見られます。遠足やクリスマス会もそうですが、カイチではこういう非認知能力（テストの点数やIQのように数値で測れない、意欲や忍耐力、協調性などの内面的なスキル）を育てるイベントがあるのも、魅力の一つであると思います。

話が少し前に戻りますが、夏に中学3年生の希望者を対象とした合宿（147名参加）があり、今津からもたくさんの生徒が参加しておりました。また今年から、3日間の合宿模試の結果で教室対抗があり、今津教室はなんと2位でした。テストや科目別で順位が出たりもして、それぞれの生徒の得意分野や頑張りがはっきりと表れる場面もあり、とても良かったです。また結果に出なくても、他の子がまだ寝ている中、朝早くから自習に来て頑張っている子たちもいて、さっきのような非認知能力を感じる瞬間もありました。

キッズでは、学童も含め、どの部門も笑顔で通っている子たちばかりで、もちろん勉強の場ではありますが、元気に学習を楽しんでくれている姿が印象的です。これからもより良い質の授業をお届けできるよう、日々励んでいきたいと思います。

さあ、中学部の皆さん。3年生は、まもなく第6回の五ツ木や実力テスト、1・2年生は期末テスト前といった時期でしょうか。こわい、面倒くさい、そんなネガティブな気持ちがあると思います。でも、9時間自習や3時間自習、これまでのテスト対策を乗り越えてきたカイチの子はきっと、その先にうれしい、楽しいがあることも知っていると思います。自分を信じて、頑張ってください。



▲今年から、個別・英検を担当している野田先生。長期の留学経験もあり、英語の発音がとても綺麗です。



▲いつもしっかり、英検準備を行う山中先生。生徒を思う気持ちは、誰にも負けません。

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

定期450点への道!!

小幡 翔太郎（関目教室）

「歴史的酷暑になる！！」というニュースにビビらされた今夏、7月は猛暑の日もありましたが、全体としては涼しい日も多く、肩透かしを食らってしまいました。40℃越えの日に外に出て「これが40℃か！暑い！！」と叫ぶ、というイメージトレーニングが無駄になってしまいました･･･。

今回は、「頑張っている割にテストの点数が上がらないな･･･」と思っている人向けに、「中学校の定期テストの点数を上げるコツ」をお伝えします。

＜3週間前～2週間前＞　予想問題を完璧にする

定期テスト3週間前には、数学・英語・理科・社会で、各学校ごとの**「定期模擬予想問題」**を配布します。これは各教室の担当の先生が、中学校ごとのテスト範囲を予測して一つ一つ作成しています。テスト3週間前に入り、予想問題が配布されたらそこからはテスト対策期間。塾のない日は「平日3時間以上」「土日・祝は4時間以上」を目安に勉強時間を確保し、予想問題に取り組んでいきましょう。

ここで、得意な教科、苦手な教科でオススメの勉強方法が少し違います。

①苦手な人は「インプット」から

得意な教科では、この手順を飛ばしてください。**苦手な教科では、数学⇒例題プリント、英語⇒本文プリント、理科⇒WinPass、社会⇒学校の教科書or必修テキストの、予想問題に入っている単元のところを確認する**ところから始めましょう。このとき、一度にテスト範囲全部を見ても頭に入りにくいので、**1つの単元を確認⇒予想問題のその部分の問題を解く**、という風に、こまめに解いていくのがポイントです。また、解くときのポイントは、次の段落をチェックしてください。

②得意な人は「まず解く」

苦手な教科は、先ほどの段落の「インプット」をしてから、得意な教科はここから始めてください。解くときのポイントは**「調べながらではなく、何も見ずに自力で解くこと」**です。わからない問題があったら一度飛ばしてOKです。**「自力でできる問題」と「解けない問題、解けるけど怪しい問題」に分けていく**のを意識しましょう。



▲まずはしっかり解いて、苦手を把握しよう！

③丸付けをする

あたりまえや！！と思われると思うのですが、**「たくさん勉強しているのに、当日のケアレスミスで点数が上がらない」という人は、たいてい丸付けが雑な人が多いです。**漢字を間違えているのに○になっていたり、記述問題で半分くらい違うことを書いているのに○にしていたり･･･。これを普段から続けてしまうと、間違ったことを覚え続け、勉強しても点数が上がらなくなってしまいます。
このタイプの人は、**丸付けの際に「問題と答えを近くに置いて、指差しで確認しながら採点する」等の工夫をし、またミスを減らすように強く意識しましょう。**

④やり直しをする

わからなかった問題や、勘でできた問題は、先ほどの例題プリントや教科書類を確認するか、**ワークの答えの「解説」を読みましょう。**これで理解できたらOKです。ただし、ワークの解説は紙面の都合上、省略されていてわからないことが多かったり、「？？？」となることも多々あります。**理解・納得ができない箇所は、必ず質問しましょう。**生徒に指導するのは、AIよりもカイチの先生たちの方がよりプロフェッショナルなので、AIで調べるよりも早く解決することが多いです。積極的に活用しましょう。
ここまで完璧にできていれば、模擬テストでも良い点が取れるはずです！



▲ワークの解説をチェック中！

＜2週間前～テスト前まで＞　オススメ対策

模擬テストが終わったら、まずはやり直し。やり方は、予想問題の④と同じです。苦手になっているところをツブすイメージで進めましょう。

模擬の直しが終わった後は、**数学は「学校のワーク」、英語は「単元別プリント・単語特訓⇒学校のワーク」、理科と社会は「一問一答⇒学校のワーク」**を進めていきます。進める際のポイントは、**「学校のワークを解くときに、何も見ずにサラサラと解ける実力をつける」**という点です。



▲質問をする人は伸びる！

また、一周終わったらOK、ではなく、**1回目にわからなかった問題・自力では解けなかった問題を再度解きなおしましょう。**「そんなん忘れてまうわー」という人は、スケジュールシートに「学校ワーク（2周目）」などと書き込んでおくと便利です。

＜定期テスト国語編＞

国語の勉強法は、悩んでいる人も多いかと思います。まず理解していただきたいのは、「模試や入試本番の国語と、定期テストの国語では問われている力が違う」ということです。模試や実力テスト、入試では「初見の文章を読み、問いに答える力」が見られています。一方、定期テストでは「学校の授業内容を理解できているか」が見られています。そのため、事前の準備が非常に重要です。

定期テスト国語では、学校の授業内容を理解・定着させることがポイントです。そのため、はじめは「学校のノート・プリントの内容を教科書に書き込む」ことからスタートします。さらに教科書を「書き込みも一緒に」読んで覚えます。こうすることで、テストの時に傍線部が引かれ、問題になっている箇所について、「あ、前に覚えたところや！」といった感じで、その場で考えるというよりは、思い出して解くことができるようになります。繰り返し読んで覚えたら、「本当に覚えたかな？」という確認で、学校のワークを解いていきます。この時も、何も調べずに頭の中に入れた知識で解ければOKです。逆に、忘れていたところや、学校のノートに書いていなかった新しい知識などは、やり直しのタイミングで教科書に書き込み、また覚えていきましょう。

以上が、定期テスト前のオススメ勉強法になります。いずれもカイチの先輩たち（実は私もカイチの卒業生）が、定期テストでガッツリ点数を取るためにしてきた勉強法です。

是非、参考にしていただき、定期テストで高得点を取ってほしいと思います。

テスト勉強を通じて身に付けてほしいこと

また、もう一つ大事なことは、「やってみて、自分なりの調整は必要かも」ということです。**テスト勉強を通して、「自分に合った学習法」を探すのが小学生・中学生にとって非常に重要です。**人によって、何回で覚えられる、書く方が良い、声に出して覚えた方が良い、など向いている方法には差があります。そういった「自分の特徴」を知っておくことが大切です。教科の勉強は高校や大学までかもしれませんが、仕事においても趣味においても、人生を通して新しいことを学ぶ場面に何度も何度も遭遇します。その時に、テスト勉強を通して得た対策法は、必ず役に立ちます。目の前の勉強を必死にやって、人生で役立つ能力を身に付けましょう。

オマケ　私立高校説明会を通じて感じること

私立高校人気の高まりを受け、私立高校の塾対象説明会に参加して情報収集を行っています。そこでよく聞くのが「学則定員」と「私立の諸費用は依然として公立よりも高いことに注意」ということです。

「学則定員」とは、府や市の定める「学校ごとの定員」のことで、近年、この定員を超過しないようにとの指導・ルールの運用が厳しくなっている、という声があります。この問題は、現在は私立高校で聞かれるようになりましたが、数年前までの私立大学で顕著でした。「大学入試が難しくなった」と言われ始めたタイミングと、文部科学省が学則定員超過へのペナルティを厳しくした時期（2016年度～）は一致しています。これからわかることは、私立も公立も、人気校だからと言って無制限に定員を増やせるわけではないため、少子化が進んでも「みんなの行きたい高校は、これからも入試のハードルが高いまま」ということです。

また、制服代・教科書代・施設利用費・修学旅行積立金・副教材（iPad等のタブレットやノートパソコンなど）等にかかる費用では、公立が3年間で約40～60万円程度に対して、私立高校では、学校により差はありますが、一般に100万円ほどかかる場合が多いです。私立高校の塾対象説明会でも、多くの学校で「諸費用等は公立より高いことに注意」というお話がありますので、授業料は無償ですが、入学後に諸費用の高さに困っている方がいらっしゃり、その注意喚起としてお話が出ているのではと推察されます。一概に私立が良い、公立が良い、という話ではなく、進学先を探す際は、上記の点も頭に入れていただければ幸いです。もちろん、ご不明点等ありましたら、教室の先生までご相談いただければと思います。



▲カメラを向けると笑っていますが、自習が始まると真剣です！